

「わたしにつながっていなさい」

ヨハネによる福音書 第15章1節～11節

説教 朴 志暎牧師

礼拝は奇跡の場です。遠く、近くから誰に強いられるのではなく、ここに集った皆様を祝福いたします。

桜が日本人を意味するならば、本日与えられたみことばに登場する“ぶどうの木”はイスラエルを意味します。創世記9章20節にぶどう畑を作り農夫になったノアの話をも、歴史の始まりから、“ぶどうの木”はユダヤ人の身近にあり、イスラエルそのものを象徴する木として親しまれ、愛されてきたのです(イザヤ書5章1～2節)。また、イスラエルには雨季と乾季があり、乾季には6ヶ月以上も雨が降りません。そして、8月。一番暑い時に“ぶどうの実”を結びます。それは収穫の喜びの時であり、乾いたイスラエルに快活な喜びそのものでした。

しかし、同時に“ぶどうの収穫”は審判を意味しています(ヨエル書2～4章)。収穫された“ぶどう”はすぐさま搾り場でつぶされ、ぶどう酒を造る為に踏みにじられるので、ぶどうの収穫は喜びと同時に審判を意味する時となります。また、この“ぶどう酒”は祝福、命そのものを意味しています。創世記49章10節～12節では、喜び、祝福の象徴でもありますし、イスラエルの結婚式に於いても“ぶどう酒”はとても重要な意味を持ち、結婚の儀式に用いられます。

そして、イエス様の人生も“ぶどう酒”で始まり“ぶどう酒”で終わったと言えます。イエス様の公生涯は、カナの結婚式で水を“ぶどう酒”に変えられた初めての奇跡から始まります。ここから、イエス様は神の国を宣べ伝え始められました。やがて最後の晩餐では、弟子たちと共にパンと“ぶどう酒”を分け合い、十字架への道を歩まれたのです。

イエス様は真のぶどうの木である、そのイエス様を信じてつながる事で、私たちは真のイスラエルになる、霊的イスラエルになると宣言されています。私たちには、農夫である神様から真の救いと選びが与えられています。“ぶどうの木”につながる枝である私たち。この枝は木の一部ですから、次の様に言えるでしょう。枝が傷むとイエス様も痛まれる。枝が実を結べば、それは、イエス様の実。私たちの痛み苦しみを

イエス様が共に痛み、苦しんでくださっているのだと示されます。同時に、イエス様の痛み、苦しみは、私たちの痛みであり、苦しみです。そして、ぶどうの実が枝が食べるものではなく、人が食べるものです。農夫のもので。全ての栄光は神様にあるのです。

「実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる」(ヨハネによる福音書15章2節)と語られる時、私たちはこの事に恐れを感じます。けれども、恐れる事はありません。イスラエルでの“ぶどうの木”の栽培方法を知れば、神様の御心が見えてきます。土の上を這うようにして伸びる“ぶどうの木”。もし、農夫の手入れがなければ、枝である私たちは変な所から根をおろそうとしたり、雨季には枝が土に触れて腐ってしまったりするのです。ですから、その様な私たちを守る為、神様は私たちに触れ、手入れし、刈り込んでくださいます。痛みが伴ってもイエス様が共にいてくださいます。

同時に、「取り除かれる」というギリシャ語には、持ち上げるという意味もあります。ですから、神様は、私たちの中にある弱さ、不安、恐怖、罪悪感等で落ち込んでしまう私たちを、持ち上げてくださる。励ましてくださり、救ってくださるのです。私たちは農夫である神様から、完全に見捨てられる事はありません。数え切れないほど神様を裏切ったイスラエルをも愛して救ってくださる神様であります。それどころか、神様は「わたしにつながっていなさい」と、仰います。それは、受洗と聖餐の“ぶどう酒”の恵みにあずかる事を示しています。

この様にして“ぶどうの木”につながった私たちは何をすれば良いのでしょうか。それは、主に留まる事、委ねる事、思いをひとつにする事です。私たちに託されたイエス様からの地上命令があります。それは伝道です。(マタイによる福音書28章19～20節)神様の喜びを私の喜びとする事。イエス様の切実な思いを共にする事。伝道に励み、主と共に多くの伝道の実を結ぶ事。互いに愛し合い仕え合い、来臨の主を待ち望む事こそ神様の愛の内に歩む事です。愛する兄弟姉妹の為に、心を尽くして愛し続けましょう。みことばに生かされて歩み続けましょう。

(記 説教要約担当者)